

山形県

発掘調査速報会

2017

期日：平成30年3月11日(日)

13:00~16:20

会場：山形県生涯学習センター 遊学館



【主催】山形県教育委員会

【共催】山形市教育委員会 米沢市教育委員会

公益財団法人山形県埋蔵文化財センター

平成29年度 山形県発掘調査速報会2017

主催 山形県教育委員会
共催 山形市教育委員会、米沢市教育委員会
 公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
日時 平成30年3月11日(日)13:00～
会場 山形県生涯学習センター 遊学館
 2階ギャラリー 受付 遺物・パネルの展示
 2階ホール 速報会発表会場

- 次第**
- 12:00 開場
 - 13:00 開会の挨拶
 - 13:05 平成29年度の県内の発掘調査の概要について
(山形県教育庁文化財・生涯学習課)
 - 13:15 報告① 史跡山形城跡(二ノ丸)
(山形市教育委員会)
 - 13:35 報告② 史跡山形城跡(本丸)
(山形市教育委員会)
 - 13:55 報告③ 山形城三の丸跡
(山形市・山形県埋蔵文化財センター)
 - 14:15 報告④ 花沢a遺跡
(米沢市教育委員会)
 - 14:35 休憩・出土品の見学
 - 15:00 報告⑤ 大南遺跡
(米沢市教育委員会)
 - 15:20 報告⑥ 八幡一遺跡・八幡西遺跡
(川西町・山形県埋蔵文化財センター)
 - 15:50 報告⑦ 下中瀬遺跡・野田遺跡
(遊佐町・山形県埋蔵文化財センター)
 - 16:20 閉会



平成29年度 報告遺跡一覧

遺 跡 名	調査 回数	所在地	時代	調査 面積	調査 日程	起因事業
史跡山形城跡(二ノ丸)		山形市	近世	400 ㎡	5/12～ 10/31	山形城跡整備事業
史跡山形城跡(本丸)		山形市	近世	1,300 ㎡	5/18～ 12/28	山形城跡整備事業
山形城三の丸跡	第20次	山形市	奈良・平安 中世・近世	130 ㎡	6/27～ 9/29	一般国道112号霞城改良事業
はなざわ 花沢a遺跡	第3次	米沢市	縄文・奈良 平安・近世	3,170 ㎡	6/12～ 10/6	宅地造成
おおみなみ 大南遺跡	第2次	米沢市	縄文・古墳・奈良 平安・中世・近世	13,600 ㎡	4/17～ 11/30	置賜広域行政事務組合浅川最終処分場整備事業
やわた いち 八幡一遺跡	第2次	川西町	奈良・平安 中世	300 ㎡	7/3～ 9/5	一般国道113号梨郷道路事業
やわた にし 八幡西遺跡	第2次	川西町	奈良・平安 近世	3,500 ㎡	5/12～ 9/7	同上
しものなか 下中瀬遺跡		遊佐町	奈良・平安 中世・近世	590 ㎡	6/1～ 11/29	日本海沿岸東北自動車道建設事業 (酒田みなと～遊佐)
の だ 野田遺跡		遊佐町	奈良・平安	6,300 ㎡	6/1～ 11/29	日本海沿岸東北自動車道建設事業 (遊佐～象潟)

表紙写真 左側上:史跡山形城(本丸)、中央上:下中瀬遺跡、右側上:野田遺跡
 左側中:史跡山形城(二ノ丸)、中央中:大南遺跡、右側中:八幡一遺跡
 左側下:山形城三の丸跡、中央下:花沢a遺跡、右側下:八幡西遺跡
 表紙背景 遊佐町野田遺跡上空より鳥海山を望む

山形城の二ノ丸土塁は、本丸の外側を同心円状に廻っています。今年度は二ノ丸土塁の北東部を調査しました。

今回の調査で、屏風折れ土塀の礎石が検出されました。屏風折れ土塀とは、所々鋭角な折れ曲がりをもつ土塀のことです。一般的に土塀には穴が開いており、ここから攻めてきた敵に対して身を隠しながら弓や鉄砲で攻撃します。通常の直線的な土塀では正面は狙いやすいですが、左右が死角となってしまいます。その欠点を解消したのが、屏風折れ土塀です。折れ曲がる部分からは、左右の敵に対しても攻撃することが可能となります。

屏風折れ土塀は2時期あることが確認されました。新しい時期は城の外側（堀側）に折れ曲がる外折れ式で、古い時期は城の内側（本丸側）に折れ曲がる内折れ式の構造でした。古い時期の土塀が倒壊したため、新しく新築したことが確認できました。内折れ式の古い時期は、土塁の築造と同時期の鳥居氏時代（1622年～）と考えられますが、外折れ式の新しい時期への改築時期は不明です。

山形城以外の城郭で、城絵図に屏風折れ土塀の記載があるものは存在しますが、遺構とし

て現存している事例はありません。今回、山形城で検出された屏風折れ土塀は、全国的に見ても非常に貴重な遺構です。

また、土塁北側で、肴町向櫓の石垣が検出されました。ここには、城絵図によると、二層の櫓がそびえていました。平面規模は、東西約8.5m、南北約6.5mで、南側に雁木^{がんぎ}と呼ばれる階段が設置されていました。石垣の築造年代は、土塁の築造と同じ鳥居氏時代であると考えられます。石垣の高さは、最大約2m積みまれていました。ただし、時代を経るごとに石垣を埋めるように周囲が整地され、幕末には地表面からの高さは40cm程度になっていました。（齋藤仁）



肴町向櫓全景 南側に雁木が付属します。



肴町向櫓の南側で検出された瓦一括廃棄



屏風折れ土塀 新時期の折れ曲がり部

史跡山形城跡 本丸御殿跡

—最上氏時代の黄金の瓦が
多量に出土—

山 形 市

本丸御殿跡では、昨年度発見した最上氏時代の堀跡の詳細調査を行いました。

堀跡は全面に石垣を築いたものですが、その北西部には堀跡に連続する石垣をもたない溝跡が見つかり、かつて逆L字状の溝から石垣を伴う直線の堀跡へと改修したことがわかりました。

連結する北西部分には土留めの石垣が見つかり、数回の改修工程と、石垣の様式変化が認められます。また、その改修工程から堀跡の西側の石垣構築ののち北～東側の石垣の構築へと変遷したことを示していました。石垣の下部の観察でも西側の石垣は堀底よりも掘り下げて築いたことがわかり時間差が認められます。このことは、堀跡の西側に重要な空間が存在したことを示す可能性が考えられます。

また、今年度の調査でも堀内上層から大量の瓦が出土しました。鯰瓦や鬼瓦が出土しましたが、その一部には金箔がつく金箔瓦です。金箔瓦は軒丸・軒平など軒先を飾る瓦以外にも屋根の大棟を飾る輪違瓦・菊丸瓦などもありました。さらに漆喰をともなった壁材も大量に出土しており、瓦が葺かれていた建造物は漆喰塗りであった可能性が高まりました。今ま

で最上氏時代の本丸御殿の具体的な姿はよくわかっていませんでしたが、かつての姿を解明する大変貴重な発見です。

(五十嵐貴久)



最上氏時代の堀跡調査状況（北側から）



堀跡北西部土留め石垣（北東から）



オモダカ紋金箔押鬼瓦

山形城三の丸跡

一街に眠る
古代から近代のくらしー

山形市

山形城三の丸跡第 20 次では、三の丸内の北側の国道 112 号に沿った 2 ヶ所の調査を行いました。国道 112 号の改良工事に伴う発掘調査は、平成 23 年に開始され、7 年目の調査となりましたが、今回は M 区（城北町）と L 区（大手町）の発掘調査を並行して実施しました。

両区とも遺構が検出できる面からは、奈良・平安時代から近世・近代まで、各時代の遺構や遺物が見つかり、人々がこの地に長い期間にわたって暮らしてきた様子がわかりました。市街地の建物の跡地でしたが、現在の地面から 1 m ほど深かったため、後世の攪乱を免れていたようです。

遺構が最も多く見つかったのは、P 区（P-5 区）とした大手町交差点の近くの調査区で、近世から近代にかけての水路や水場と考えられる石組みの施設が検出されました。調査区の多くが河川の氾濫による川原石で覆われており、これらの石を掘り込んで遺構が作られており、水場遺構からは 16 世紀末～17 世紀初め頃の佐賀県で焼かれた皿の破片が出土しました。

また M 区（M-2 区）とした城北町の調査区で



M 2 区全体写真。上方の 1 段低い面から、奈良・平安時代の土器が出土しました。

は、近世～近代の遺構面のさらに下から、奈良・平安時代の土器の破片が多数出土しました。

江戸時代には武家屋敷となっていたこの一帯は、古代から既にある程度の規模の集落が存在しており、そうした集落を基盤に城下町が形成され、近代の山形市街地につながったと考えられます。今回調査した三の丸の北側は、後世の開発があまり進まなかったため、土が厚く堆積しており、遺構や遺物が良好な状態で残ってありました。

（小林圭一）



石を組んだ水場遺構（P-5 区東側）。遺構内から肥前皿（16 世紀末～17 世紀初め）が出土しました。



P-5 区西側の全体写真。地面多くが川原石で覆われています。

花沢 a 遺跡は、米沢駅の北西約 700m 地点、最上川（松川）東岸の河岸段丘上に立地しています。花沢 a 遺跡の発掘調査は、昭和 62 年（1987）に米沢市教育委員会によって行われた分布調査（第 1 次調査）に端を発し、平成 19 年（2007）の第 2 次調査、そして今回の第 3 次調査と続きます。

花沢 a 遺跡は、これまでの第 1 次・2 次調査において、縄文時代中期後葉（今から約 4,500 年前）に特徴的な土器（大木 10 式）が出土しており、合わせて複式炉を伴う竪穴住居跡が検出されていました。そのことから、周辺一帯は同時代の大規模な集落が存在することが想定されてきました。

今回の第 3 次調査では、総数約 400 基の遺構が検出されました。大半が縄文時代のものですが、奈良・平安時代や近世の遺構も一部あります。主な遺構としては、土坑約 300 基、竪穴住居跡 24 棟があげられます。その他、柱穴や溝跡が検出されました。

竪穴住居跡は、24 棟のうち、複式炉という大型の石組炉を持つ住居跡が 14 棟確認されました。同じ複式炉でも、その構造・構成は複数の種類があることがわかりました。詳細については、今後の検討課題です。

遺物は、整理用コンテナに換算して 150 箱

以上出土しており、大半が大木 10 式に属する土器となっています。その他、石鏃等の石器類も多数出土しました。縄文土器については一部に年代が異なる個体があることから、花沢 a 遺跡は、縄文時代中期後葉を中心として、縄文時代の長い間に渡り人々が住んでいたことがわかります。

現在、平成 30 年度の報告書刊行に向け、整理作業を急ピッチで行っています。今後は、限られた時間の中ですが、花沢 a 遺跡の全容が少しでも解明できるよう、近隣他遺跡の事例や先行研究を参考に、更なる分析・検討を進めていきます。（佐藤智幸）



調査区全景。集落の空間構成を考えると、住居群と土坑群に分かれていることがわかります。



住居跡。炉の袖石に大型の石材が使われています。



土器を逆さまに置いてあります。お墓と思われます。

大南遺跡は、最上川の支流である天王川てんのう（梓川）右岸の自然堤防上に立地します。平成28・29年度の2カ年で約27,600㎡の発掘調査を行い、今年度（第2次）は遺跡の西側（Ⅲ・Ⅳ区）と東側（Ⅱ区）で昨年度に発見した中世の堀跡を中心に調査しました。

Ⅲ・Ⅳ区からは奈良～中世の遺構・遺物が発見され、Ⅳ区で内側に「□研□」と刻書された円面硯えんめんけんの破片（写真：左下）が出土しています。第1次調査でも須恵器すゑき椀や巡方りょうわん（ベルトの飾り）などが出土しており、古代の役所かんが（官衙）に関連する集落・施設があったと考えられます。

昨年度発見した中世の堀跡は、東西約60m、南北約110mの範囲を方形に区画し、さらに東西方向の堀で内部を南北に分けています（写真：右上）。北区画の東側には、堀が途切れて出入口となる場所（土橋）があります。区画内には、2,000基を超える柱穴群があり、多数の掘立柱建物ほったてばしらたてものがあったと考えられます。北区画には桁行5間、梁行3間の身舎けたゆきに、東西南北に廂けんの付く四面廂付掘立柱建物跡（廂を含めた規模は南北約12.6m、東西8.4m）があり、堀跡と同時期の中心的な建物跡と推定しています。

堀跡から貿易陶磁器類、古瀬戸、珠洲、内耳土鍋ないじ、木製品類などが出土しています。木製品類は漆器碗を中心に、長さ約20cmの仏像（写真：右下）や「十八日観世菩薩」と書かれた木簡じゅうはちにちかんぜぼさつが出土しており、仏教との関わりを示す遺物が特に注目されます。

堀跡が機能した時期は15世紀代（室町～戦国時代）と考えており、この時期には仏堂などの宗教施設を伴う館跡、または寺院跡があったのではないかと推定しています。

今後、これらの遺構の性格や変遷を詳細に検討していきます。（佐藤公保）



中世の堀跡全景（南から撮影）



円面硯内面の刻書「□研□」



堀跡から出土した木製の仏像

最上川にそそぐ元宿川左岸の低地に位置している遺跡です。第1次調査では、『佛法為』と刻まれた平安時代の須恵器小型壺や、北部九州で製作された鎌倉時代の滑石製石鍋、板碑、五輪塔、相輪など仏教に関する遺物などが出土しました。また、遺構は中世の素掘り井戸、木製井戸枠付井戸、近世の木棺墓などが見つかりました。

第2次調査区は、第1次調査時に着手できなかった場所です。狭い面積を対象とした調査でしたが、7基の素掘り井戸、1基の木製枠付井戸、4基の土坑などが見つかりました。

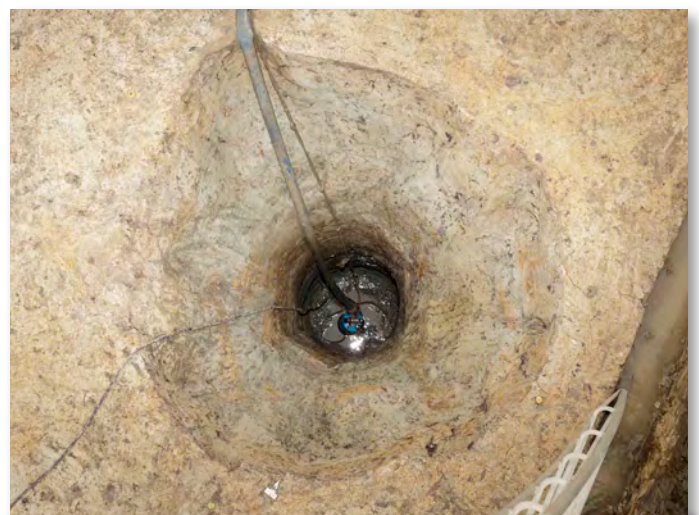
見つかった井戸のうち、水が湧く深さまで掘り下げられていたものは3基だけでした。ほかの5基は帯水層まで達しておらず、湧水はありませんでした。また、第1次調査時にも、すぐ近くで湧水のある素掘り井戸が1基見つかりました。

湧水が無いものを井戸と呼べるのか疑問がありますが、狭い範囲に集中していることから、良質な水が出てくる場所を探して試し掘りをした結果ではないかと考えています。帯水層は周囲一帯に広がっているはずで、ある一定の深さに達すれば湧水を得られたでしょう。おそらく、濁らない水を得るために、帯水層より上位の層に泥炭が含まれていない場所を探し、泥炭が含まれている層に当たった試し掘り井戸は



木製枠付井戸の完掘状況（深さ 2.4m）

深さは帯水層まで達しており湧水がありました。下段以外の木製枠は抜き取られていました。



素掘り井戸の完掘状況（深さ 3 m）

最下層は帯水層（砂層）であり、湧水がありました。

そのまま放棄されたのだらうと考えています。

井戸からは曲物や須恵器が出土しましたが、詳しい年代はこれから分析する予定です。

第1・2次調査区は湿地とその周辺部に位置しており、遺跡の中心部から外れています。調査区で出土する遺物は北側にある微高地から廃棄されたものが大半と考えられます。きっと北側の微高地上には古代・中世を中心とした集落が眠っていることでしょう。出土遺物からは、宗教色の強い施設の存在もうかがわれます。

（水戸部秀樹）



第2次調査区の全景（上が北）

多数の井戸が密集して見つかりました。



二重の濠で囲繞された近世屋敷地 (右上が北)



並列する2基の屋敷墓

八幡西遺跡は川西町北端の郊外(大字西大塚)に所在します。昨年度(第1次)は湿原の辺の古代(奈良平安)集落と、方格状の地割に基づく近世近代(江戸～戦前)集落(村)を調査しました。今回の第2次調査ではいずれもその広がりを確認し、それぞれ集落全体の構造に迫る知見が得られました。

古代では湿原に面した微高地に竪穴建物2棟・掘立柱建物3棟の各単位が点在します。1次調査の成果を合わせると、およそ4組の建物群配置が認められるようです。

近世では二重の濠で区画された村落成立時(江戸前期)の屋敷地が見つかりました。濠は発掘区の制約から北辺と東辺を検出するにとどまりましたが、屋敷地を囲繞するものと推定されます。濠は上幅3.0m弱・下幅0.4～1.4mで、深さは1.5mもあります。濠割の内部空間は埋没した湿地帯と重なりますが、地勢にかかわらず約500個の柱穴が密集し、掘立柱建物10棟弱・柱穴列3列ほどの組合せが見込まれます。中には構成する柱穴に柱根が全て遺存する建物もありました。木製遺物の残りの良さはこの遺跡の特性ですが、水路に接続する水場(方形木組遺構)(表紙写真)や昇降施設(踏面2段組)を伴う大型土坑など、木製構造物とセットの遺構からは生活の様子が生々しく具体的に見えてきます。また、濠以北は屋敷地の外界とみられますが、北辺の中央寄りに並列する2基の土葬墓(木棺直葬)があります。敷地北側に守り神として供えた先祖の屋敷墓でしょうか。男性墓から煙管が、女性墓からは紅皿や有機質小玉が出土し、被葬者の性格の一端がうかがわれます。(菊池玄輝)



柱(根元)がそのまま残る掘立柱建物

下中瀬遺跡は、秋田県境に近い遊佐町北部の庄内高瀬川左岸の自然堤防上に立地します。

今回の調査では、奈良時代末～平安時代(約1,200年前)の集落跡、その上層から戦国時代末～江戸時代(約400年前)の屋敷跡が見つかりました。

奈良～平安時代では、土坑跡や畝状溝跡群、小ピットなどが確認されました。遺物では須恵器や土師器の坏、蓋、甕、壺などが出土し、他にSK7土坑跡などでは県内で数少ない製塩土器(写真左)が出土しました。

製塩土器は、植木鉢状の形で、製作時の粘土紐の積み上げ痕跡をよく残すのが特徴で、一般に海水を濃縮させ、煮詰めて塩を取り出すための土器と考えられます。出土品も内面に剥離があるものや小破片が多く、長時間加熱されたことがうかがえます。また、厚手の大形品と薄手の小形品があり、前者は海岸部での煮沸工程用、後者が集落に持ち帰った濃縮塩の焼塩または固形塩の製造工程用と推測されます。

当時近接する海や河川を利用した塩作りや運搬が盛んに行われていたのかもしれません。

戦国時代末～江戸時代の屋敷跡では、堀跡や土坑、墓坑、溝跡などが発見されています。遺物では、陶磁器や漆器、下駄や井戸杵、建築部材などの木製品、古銭などが出土します。

堀跡は、調査区東側から中央部にかけて、幅約2mのSD16・18堀跡が近接する高瀬川に沿って南北に2条に並びます。またそれに直交しSD29・SD33堀跡が東西に並びます。

出土遺物からは、概ね戦国時代末～江戸時代初め(下層)に掘られ、江戸時代前半(中層)には徐々に埋没し、江戸時代後半～幕末(上層)には人為的に埋め戻され、SK22土坑跡やSE31井戸跡が新たに構築されます。

更に、直交する堀跡群に囲まれた調査区西側には、SK20土坑跡やSX41溝跡があります。前者は炭化した木製品や複数の古銭が出土し墓坑跡、後者はコの字状の形状から祭祀に関わる遺構が推測されます(写真右)。

これらからは、調査区南側に広がる江戸時代の屋敷跡が推測され、調査区南西側には「(屋敷跡の)前谷地」字名もあります。概ね調査区は、この屋敷跡の外郭にあたり、全体に葬礼や祭祀に関連した性格も推測されました。(植松暁彦)



製塩土器(左下底部。右口縁部。→は粘土紐痕)



直交する2条の堀跡群(手前)と土坑墓(奥)

野田遺跡は、秋田県境に近い遊佐町北部にあり、庄内高瀬川右岸の自然堤防上に立地し、標高は約 3 m 前後を測ります。下中瀬遺跡とは、西側に直線距離で約 1 km と近接します。

今回の調査では、奈良時代末～平安時代(約 1,200 年前)の集落跡が発見されました。

日本海沿岸東北自動車道の計画路線が集落跡の中心部を横断する形となったため、調査区内から集落を構成する建物群や井戸跡、土坑跡、溝跡などが検出され、当時の一般集落の構造が明確に分かったことが成果として挙げられます。

調査区では、東と西側に低湿地があり、それに挟まれた、中央部に幅約 30m の微高地が南北方向に長さ約 100m 以上続きます。

大半の遺構は、この微高地上にあり、建物群は集落の中央部に、井戸跡や大型の土坑は集落の南端と北端にまともって造られたようです。

個別の遺構では、掘立柱建物が 7 棟以上確認され、SB 1～3 建物跡の重複から 3 時期以上の建て替えもうかがえました。但し他の建物は小規模だったり、間尺が大きいなど一般的な古代の建物とはやや様相の異なるものが多いのも特徴としてあげられます。

井戸跡は、4 基以上発見され、SE101 井戸跡(写真左)が縦板・横棧の木組みが見られた井戸跡で、他は素掘りの井戸跡でした。

特に SE101 井戸跡の井戸枠内からは十和田 a 火山灰層(915 年降灰)も確認され実際の年代が分かる資料として注目されます。また掘方からは、県内で初出の「嶋」と墨書きされた土器も見つかり、他にも複数出土していることから当時集落に住んだ人の氏(ウジ)名を表している可能性が考えられます。

土坑跡は 6 基以上確認しました。特に SK 2・SK102 土坑跡では、県内で数少ない齋串(いぐし)がまともって出土しました。齋串は、小型の塔婆状の木製品で、お祓いなどの祭祀に使われたと考えられます(写真右)。

出羽国(山形県・秋田県)では、9 世紀中頃に地震(833 年・850 年)や鳥海山噴火(871 年)が相次ぎ、朝廷から「陰陽師」が全国に先駆けて派遣されます。

出土した齋串は、この時期を前後する年代のもので、当時のこの地域の自然災害から身を守ろうとした祭祀の実態を知る上で貴重な資料となります。

(植松暁彦)



SE101 井戸跡(井戸枠の礫下に火山灰出土)



SK 2 出土 齋串出土状況(矢印が齋串)

山形の遺跡と日本・世界の歴史

年代	時代		県内の主な遺跡 ●:29年度発表遺跡(主要な時代を示します)				山形の歴史	日本の歴史	世界の歴史	
BC30000年	旧石器時代		上屋地 清水西 越中山 小国東山	(飯豊町) (村山市) (鶴岡市) (小国町)	弓張平B お仲間林 金谷原 角仁山	(西川町) (西川町) (寒河江市) (大石田町)	山形県に人が住みつき、県内で産出する良質な頁岩で作られたナイフを使う	日本列島に人が住みつき石器を使って狩猟などをして生活する	原人 旧人 新人	
BC11000年		縄文時代	草創期	日向洞窟 火箱岩洞窟 大立洞窟	(高畠町) (高畠町) (高畠町)			隆起線文土器を使う人が日向洞窟などで生活を始める	弓矢がつかわれた 土器づくりがはじまる	
	早期		にひやく寺 北原4	(山形市) (村山市)	いるかい 坂ノ上	(尾花沢市) (山形市)	堅穴住居による小集落が形成される	縄文海進が進む 漁撈活動が盛んになる	農耕牧畜が起こる	
	前期		高瀬山 押出	(寒河江市) (高畠町)	小林A 吹浦	(東根市) (遊佐町)	漆を使って文様を描いた土器がつけられる	落葉広葉樹林が広がる 磨石・石皿・凹石が多くなる	トルコ・世界最古の都市 チャタル・ヒュイク成立(約6000年)	
	中期		西ノ前 小反 空沢 高瀬山	(舟形町) (鮭川村) (長井市) (寒河江市)	中川原C 西海湖 西向 熊ノ前	(新庄市) (村山市) (鶴岡市) (山形市)	計画的な大集落があらわれる	関東地方に見塚があらわれる 三内丸山遺跡が繁栄する	とうもろこし栽培のはじまり メキシコ(約5000年)	
			●花沢a	(米沢市)	山居	(西川町)				
			後期	北原2 高瀬山 川口	(村山市) (寒河江市) (村山市)	小山崎 かつば 砂子田	(遊佐町) (最上町) (天童市)	堅穴住居に複式炉が作られる	配石遺構がさかんに作られる	楔形文字が使われる(約3500年) ピラミッドが作られる(約2650年) インダス文明がおこる(約2500年) 殷王朝がおこる(約1600年) 孔子生誕(552年) 仏教成立(450年) アレクサンダー大王生誕(356年) 秦王朝がおこる(221年)
	晩期		宮の前 作野 森の原	(村山市) (村山市) (村山市)	下叶水 釜淵C 北柳1	(小国町) (真室川町) (山形市)	中国製青銅刀がもたらされる	亀ヶ岡文化が栄える 九州で米づくりはじまる		
AD1年 300年	弥生時代	上竹野 百刈田	(大蔵村) (南陽市)	生石2 庚壇	(酒田市) (南陽市)	米づくりがはじまる 機織りはじまる	吉野ヶ里遺跡が繁栄する 邪馬台国が出現(230年頃) 環濠集落の発展 前方後円墳がつけられる 大和の土師器が全国に広まる	光武帝が東国に金印を授ける(57年) ポンペイが噴火により埋没(79年) 魏呉蜀三国時代(220年)		
	古墳時代	畑田 玉作2 鎌倉上 元立北 今塚 蔵増宮田 板橋2 西沼田 矢馳A 物見台 南原 廻り屋	(鶴岡市) (鶴岡市) (米沢市) (米沢市) (山形市) (天童市) (天童市) (天童市) (鶴岡市) (中山町) (高畠町) (白鷹町)	比丘尼平 天神森古墳 稲荷森古墳 寶領塚古墳 菅沢古墳 大之越古墳 お花山古墳群 服部・藤屋敷 梅ノ木 太夫小屋2・3 百刈田 中里	(米沢市) (川西町) (南陽市) (米沢市) (山形市) (山形市) (山形市) (山形市) (山形市) (川西町) (南陽市) (米沢市)	鉄製農具がつかわれた 県内最大の前方後円墳がつけられる 東北最大の円墳がつけられる	須恵器がつけられた	ゲルマン民族大移動(375年) 南北朝時代(439年)		
600年 700年 800年		飛鳥時代	北目古墳 安久津古墳群	(高畠町) (高畠町)	羽山古墳 長手古墳	(高畠町) (米沢市)	湯殿山開山(605) 出羽郡が建郡される(708年) 出羽櫓が設けられる(709年) 出羽国が建国される(712年) 出羽櫓が秋田村高清水岡に移転する(733年)	聖徳太子摂政となる(593年) 十七条憲法を制定(604年) 平城京に都をうつす(710年) 東大寺の大仏開眼(752年) 平安京に都をうつす(794年) 長岡京に都をうつす(784年) 平安京に都をうつす(794年) 続日本紀ができる(797年) 胆沢城をつくる(802年)	マヤ文明絶頂期(600年) 唐王朝がおこる(618年)	
		奈良時代	二色根古墳 不動木 壇山古窯跡群	(南陽市) (河北町) (川西町)	牛森古墳 木和田窯 西町田下	(米沢市) (米沢市) (米沢市)	慈恩寺建立(746年) 出羽国大地震(850年) 立石寺が開山(860年) 鳥海山が噴火する(871年) 最上郡が二分され、最上郡と村山郡になる(886年) 十和田火山の噴火により県内にも火山灰が降る(915年)	李白・杜甫・楊貴妃らが活躍		
			平安時代	●野田 ●下中瀬 北原2 清水 馳上 ●八幡西 八反 蟬田 松橋 沼袋 田向2 沼田2 南口A 山田 川前2 小松原窯	(遊佐町) (遊佐町) (村山市) (村山市) (米沢市) (川西町) (東根市) (村山市) (村山市) (東根市) (村山市) (村山市) (庄内町) (鶴岡市) (山形市・中山町) (山形市)	城輪柵 俵田 八森 泉森窯 山海窯跡群 大坪 下長橋 玉作2 的場 蔵増押切 堀端・埴ノ上 四ツ塚 三条 落衣長者屋敷 今塚 三本木窯	(酒田市) (酒田市) (酒田市) (酒田市) (酒田市) (遊佐町) (遊佐町) (鶴岡市) (天童市) (天童市) (長井市) (河北町) (寒河江市) (寒河江市) (山形市) (山形市)	荘園の成立	将門・純友の乱(935・939年) 藤原氏の全盛(1016年)	カール大帝戴冠(800年) アラビアンナイト成立 高麗王朝がおこる(918年)
				前九年合戦はじまる(1051年)						
	後三年合戦はじまる(1083年)									
	中尊寺建立(1105年)									
1200年	鎌倉時代			●八幡一 大楯 沼袋 執行坂窯	(川西町) (遊佐町) (東根市) (鶴岡市)	長表 永源寺 七日台 蓮華寺	(山形市) (天童市) (鶴岡市) (鶴岡市)	鎌倉に幕府をひらく(1192年) 南北朝の動乱(1336年) 室町に幕府をひらく(1338年)	モンゴル帝国樹立(1206年) マグナカルタ制定(1215年) ダンテが活躍 百年戦争が始まる(1337年) 明王朝がおこる(1368年)	
1400年	室町時代			柳沢A ●大南 小田島城 八反	(鶴岡市) (米沢市) (東根市) (東根市)	高松Ⅱ 蔵増押切 安中坊 館山北館	(寒河江市) (天童市) (西川町) (米沢市)	最上義光が最上家第11代当主となる(1570年)	種子島に鉄砲伝来(1543年) 織田信長安土城築城(1576年)	ルネサンス全盛 マゼラン世界一周(1522年) ガリレオが活躍(1564年)
1500年				安土桃代山	出張坂城 木の下館 山形城三の丸 稲荷山館	(鶴岡市) (鶴岡市) (山形市) (米沢市)	大宝寺城 白鳥館 米沢城 亀ヶ崎城	(鶴岡市) (村山市) (米沢市) (酒田市)	義光の娘・駒姫処刑される(1595年) 出羽合戦(長谷堂合戦1600年)	豊臣秀吉の天下統一(1590年) 関ヶ原の戦い(1600年)
1600年	江戸時代				新庄城 ●山形城 羽州街道 洪江 ●八幡西	(新庄市) (山形市) (上山市) (山形市) (川西町)	鶴ヶ岡城 三条 南台 飛泉寺跡 坂ノ上	(鶴岡市) (寒河江市) (長井市) (小国町) (山形市)	最上義光没する(1614年) 最上氏改易(1622年) 上杉鷹山、米沢藩藩主に(1767年)	徳川家康江戸に幕府をひらく(1603年)